

施術者氏名 番号	第1回 Case 2
年齢(代)	70代
性別	女性
S (subjective) : 主観的情報	
主訴	右股関節痛 (歩行困難) 食欲不振 吐き気 腹部痛
既往歴	x-21年 糖尿病からの腎不全 (現在も人工透析) x-13年 腸閉塞 x-6年 脊柱管狭窄症 要介護3、車いす生活
	(アレルギー) なし
	(手術歴) なし
	(出産) 子供2人 (事故)
家族歴	(父) (母) (子)
現病歴	(医師による診断名) 逆流性食道炎、便秘症、腰痛、脊柱管狭窄症、骨粗しょう症
	(発病様式・内容・経過) x-1年12月ころから発症
	(服薬) アルギン酸ナトリウム液、ポノプラザンフマル酸塩、ルビプロストン、センノシド錠、ピコスルファートナトリウム水和物、プレバガリンなど
O (objective) : 客観的情報	
初診日	x年2月
所見(脈・舌・バイタル等)	(バイタル) (脈) (その他) 歩行困難 股関節痛
	(硬結) 頸部 腰部 腹部 (圧痛)股関節圧痛
A (assessment) : 評価	
評価・弁証	緊張・冷え が強い。改善を目的とする
	(評価法) (流派)
P (plan) : 計画 (治療)	
計画・治療・指導	(取穴) 股関節周辺に鍼灸 足の三里に灸 頸部緊張緩和目的でけん引
	(刺鍼法) パルス・置鍼 (時間)5~10分程度
	(得気)有 (深さ)浅い
	(頻度)週に4、5回
経過	x年2月初診。主訴や持病が多い。総合病院で3/w人工透析治療

	<p>中。主訴は右股関節の痛み、吐き気や食欲不振。投薬の効果が感じられないとの事で、鍼灸による右股関節痛や腰痛が軽減されることを期待している。初診の問診をうけ、総合病院の腎臓内科の医師に施術状況を報告した。以降、5/wほど出張による施術。腰部（腎俞・志室等）・頸部、股関節周辺に鍼灸、軽めの運動療法（股関節中心）を行った。施術後、腰部や頸部の痛みは軽減するが慢性化しているため症状は一進一退。</p> <p>x年5月、3か月ほど施術を継続しても股関節の痛みが強いたので再度の医療機関での精密検査を勧めた。骨粗しょう症や糖尿病性の神経障害などの持病が多いためである。総合病院、腎臓内科の主治医の指示で同病院内整形外科にて右股関節の診察も異常なし。</p> <p>x年6月をもって患者希望により施術が中止となった。</p>
<p>考察</p>	<p>既往歴や現病歴も多いことから精密検査を勧めたのだが、理由をあまり理解してもらえず、また当初患者が期待したよりも疼痛緩和改善が見られなかったため、鍼灸治療に対する不信感を招き施術が中止になったと考えられる。反省点は以下の2点である。</p> <p>（1）最初にもう少し時間をかけて、糖尿病性の疼痛や神経障害についての鍼灸施術効果を（*参考1）説明すればよかった。</p> <p>（2）担当の医師にお会いし状況を報告し、鍼灸施術の何に期待しているかのヒアリングし、もう少し医師やケアマネージャーとも密にコミュニケーションをとればよかった。</p>